

9月報(2022年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

猪口神父様、霊名の祝い おめでとうございます！



8/14(日)9:00ミサ中に、マキシミアノ・マリア・コルベの霊名を頂く猪口神父様のお祝いの会がありました。まず、協働の梅田さんが、神父様へのお祝いの言葉と聖コルベ神父の生涯を紹介しました。次いで中根さんから、霊的花束や集まった献金をプレゼントしました。最後に、猪口神父様のお言葉を頂き、終わりました。



【信仰に生きる】

吉田 和美

タイトルには不合格と烙印を押されそうな私ですが、信仰に生きさせて下さろうとする神の慈愛と、そして共に歩む共同体の皆様の力が私を引っ張って下さっていて辛うじて書けそうに思えます。

滋賀県彦根教会で3才の長男と受洗の恵みに浴しました。きっかけは彦根城のお堀に五、六羽の白鳥がいて、子どもとパンの耳をあげる為遊びに行っていたところ、お堀の囲いの道路のそばに、元家老屋敷跡の拡大な土地にレデンプトル会管轄の彦根教会と聖ヨゼフ幼稚園、司祭館、事務所があり、事務所には姉妹2人のカテキスタが居られ、話しをするようになりました。暁の星高校で唱えたマリア様のお祈りが忘れられなかったからです。選択科目も「聖書」を選んでフランス人のマザーが静かに小声で読んで下さり、何も分からないままですが楽しかったのです。次男も生まれ幼児洗礼を受けました。8年後、思いもかけない母子3人の苦難の生活に陥りました。その後、縁あって兵庫県の豊岡市に住み豊岡教会で10年間旧約聖書、新約聖書を聖書思想事典に基いて、週3回は夜教会に集まって勉強しました。無論必ず神父様を中心にです。異端だ、と言う方も居られ



て少人数の5、6人でした。しかし私には光が射られ絶望と不安が砕ける思いでした。

二人の息子はアルバイトをして大学も卒業し良き父親になり安堵しています。但し、長男が教会から離れているのが残念なのですが。

私は、次男が通っていた教会で、新聞の手伝いをしていると聞いて、「心は心に語る」という素晴らしい詩の本を送りました。次男は、一節ずつ新聞に載せると皆さんに喜んでもらえると言っていました。もう25年位前のことです。ずっと作者の事を知りたいと心に持っていたのですが、突然昨年のカトリック新聞で「第2バチカン公会議の父、聖ニューマン」と掲載されていました。2019年10月教皇フランシスコにより列聖された方です。マザーテレサもニューマンの祈りと祈っておられます。「心が心に語る」はジョン・ヘンリー・ニューマンの紋章、とありました。

昨年10月備後協働体研修会で柳田敏洋神父様が一般信徒の「聖性」についてお話しされました。ニューマン枢機卿が第2バチカン公会議に与えられた事柄だと思いました。

神様からの様々な形の恩恵を受け、神の愛が自然と自分からあふれだす事を夢見て教会共同体の家族として歩み続けられる事を願っています。

誓願60年（ダイヤモンド祝）おめでとうございます！

シスター春日撮子

【福山教会の皆様】

シスター勝部卿子

聖イグナチオの祝日7月31日、修道院で修道生活60年の節目にあたり、私達のダイヤモンド祝が感謝のミサの中できょうだいの的に祝われました。

司式して下さった猪口神父様をはじめ、心を合わせてお祈りくださいました教会の皆様お一人お一人に心から感謝申し上げます。

このミサの中で、猪口神父様は善き牧者のたとえ（ヨハネ10章）でお説教してくださいました。「キリストは善い牧者として、羊のために命を捧げ続けられ、私達＝教会＝神の民は羊の声を聞き分け、彼に従っている群れ。60年の節目になされる修道誓願の更新は、今とこれからの未来に向けて、この世界のために神の民の中で修道会から与えられたあなたがたのミッション（使命）を続ける、再出発のとき、希望と恵みの原点です。」と力強く励ましてくださいました。

全教会の動向に高くアンテナをたてながら、教会の皆様と一緒に祈り、私達が聖別奉獻生活の旅路を続けていけるよう、ともに続けてお祈りくださいますように。

皆様、感謝と喜びの歌を一緒に歌ってくださいませんか。

♪♪主の大いなる憐みを永遠に歌わん♪♪



『自分の持ち物を売り払って施しなさい。擦りきれることのない財布を作り、尽きることの無い富を天に積みなさい。』

今日は、このイエスの言葉が心に留まりました。

「自分の持ち物を売り払って施しなさい」とは、具体的に売り払うことではなく、何よりも大切な天の国を得るために、必要なことはただ一つ、この世のすべての物を失っても、それに換えられない宝、イエスのみ国に迎えられる恵みに希望を持つことなのです。

そして、イエスの言葉は続きます。主人の訪れは、予想もしない時に訪れます。

私たちは、いつも準備していなければなりません。

けれども、いつも心を準備しておくことは本当に大変です。

毎日毎日を、そして、一瞬一瞬を、大切な時と考えましょう。

今、この時が、神さまから頂いた、2度とない出会いであり、大切な恵みの時と感ずること。

毎朝、新しい朝を迎えられたことに感謝し、十字架を切ること、休む前に、1日を無事に過ごせたことを神に感謝する。そんな習慣をつけることが出来たら素晴らしいですね。

いつ神さまに迎えられても、準備が出来たら、何と心を静かに、安らかに生きることが出来るでしょう。

本当に難しいですが、わたしたちには、大きな愛といつくしみに満ちたイエスがおられます。

小さなつまずきに心が折れそうなときも、すぐにイエスの幹に繋がります。

イエスから離れないでいたいと思う心、忘れないようにしましょう。

8月は、平和を祈る月です。絶望の中で苦しむ人がたくさんおられます。かれらは、平和を望むことすら出来ないのです。

彼らを、イエスの慰め、希望、そして、あなたの限りない慈しみで包んでください。



【南相馬便④】

援助マリア修道会南相馬修道院 北村 令子

毎年7月の最終週の土曜日、日曜日、月曜日と3日間、相馬地方の最大行事である相馬野馬が、今年は7月23(土)、24(日)、25(月)とコロナのために3年ぶりに通常の形で行われました。ここ2年間は無観客や神事のみといった形では行われてきましたが、観客を入れての通常の形は3年ぶりです。平将門が軍事演習に行ったことが始まりという1000年以上続く一大イベントです。神事に関しては国の重要無形民俗文化財にも指定されていて、毎年国内外からの観光客を集めていて、震災の時にも何らかの形で続けられたと聞いています。相馬氏

の根拠地である相馬市の中村神社と南相馬市の小高神社をむすぶ沿線は騎馬武者の行列、今年はいつもとより少し少なくても、354 騎の騎馬が出場するとのことで、見事な行列です。今年には総大将を14歳の相馬言胤（としたね）さんが勤めるとのこと。前日の22日に元服式を執り行って、初陣です。23日は小高神社で、御初連式（出発式）、神社での祈りとほら貝の礼螺奉吹（れいがいほうすい）、神輿と騎馬の行列。24日には、原町の祭場で甲冑競馬が行われ、午後、帰り馬の行列が小高駅前通りを通り、小高工房では騎馬に水をあげるのので、私達も参加しようと、午後2時のミサからとんぼ返りしました。そして夜は火の祭りで、小高川の堤に2000灯のかがり火がつけられ、4000発の花火がうちあげられました。小高川の堤の特等席から眺めました。



25日の月曜日、最後の日は小高神社で裸馬を捕えて神様に捧げる神事が行われました。



7月23日野馬追初日、小高神社から出発した行列です。

梅雨のような長雨が続き、野馬追のお天気が心配されていましたが、3年ぶりの待ちに待ったこの日は快晴で気持ちの良い日でした。私達もこの地域の人々の喜びに心を重ねて喜びを共にしました。

話変わって、小高の若者たち（多くは県外からの移住者）の活躍を紹介します。

小高には、ネクストコモンズラボ（NCL）という町おこしのため、県外から移住してきた若者達が、地域の課題や資源に焦点をあてて、福島の復興のためにプロジェクトを推進する南相馬市の

事業の拠点があります。7月号でちょっと触れた、ホースシェアリングもそのチームの一つです。NCLは若者のいない南相馬市に、新しい起業家を呼び込み、町の活性化を図ろうというものです。

・ホースシェアリングは“馬のまち”南相馬市で、馬を身近に感じられる乗馬の体験や観光に寄与するプロジェクト。相馬野馬追を実際に見て、相馬と言うだけあって、この地域は馬の文化、馬に親しみ、馬を愛する地域で、町おこしのためにも、うまく利用して活気づけようとの取り組みです。





・アロマセラピーで心と体の緊張をほぐし、幸せな人生を送れる社会をと活動する女性。

・南相馬の魅力的なヒト、モノ、コトを使って社会の活性化のためのローカルマーケター。

・地域の困りごと、高齢者の IT 技術の助っ人、地域のシステムエンジニアとして活動するローカルシステムエンジニア小高テック工房。

・Artviva デザインとアートで南相馬市をクリエイティブに。

・ハッコウバ南相馬市で 1000 年続く酒造の復活を。酒蔵を立ち上げ、小さなバーも併設。

・サーファーヴィレッジ:サーフィンの聖地南相馬市沿岸部の価値の創造。

・Way-Way: 無人駅の小高駅を世代や地域を越えて繋がる場にする、前代未聞の「駅を使って遊ぶ」場づくり。

NCL 南相馬新聞 2020 年 9 月号

などなど沢山のプロジェクトが活動を広げています。小高工

房の裏手にパイオニアヴィレッジという建物があって、そこに小高ワーカーズベースがあります。南相馬市で新たに起業をする人たちの支援、相談をする団体で、NCL もその協力団体です。でもこれは私の思っていることで本当はどこがどうつながっているのかよく分かりませんが、とにかく全国から若者がこの地域・福島を活性化するためにやって来て、活動してくれていることは感動的です。本当に若者の姿を目にすることが少ない私たちにとって、NCL の人達と出会えることは新しいエネルギーをいただく機会です。

浪江町や双葉町などにも若い世代が町おこしのために移住してくるとの報道がありました。檜葉町は子育て応援がとても行き届いて、子供を持つ家庭、しかも乳幼児を抱えている家庭が増えていっていると聞きます。子育てしやすい町づくりとあって、若いお母さんたちのグループがお互いに助け合って、当番で子供の面倒を見て託児所のようなことを仲間内でして、それが大変好評で、檜葉の町に若いお母さんたちが集まるようです。こんな報道を聞くと、日本の若者もまんざら見捨てたものではないなと思います。いえ見捨てているわけではないのですが、見直しました。

原発被害を被った町は、地元の人達だけの力では復興はかないません。全国から若者が、若者とだけに限定ではありませんが、志のある方によって手助けをいただかなければ、復興はできないと思います。復興は元に戻すことでなく、新しい創造でなければならないと思います。高齢化の進んだこの地域に、伝統ある農業・漁業・酪農・林業・工芸などあらゆる分野に秀でたこの地域の宝を継承し発展させ、新しいものに作り上げていくためにも、全国から

移住して、共に再創造の時代を築いていただきたいと切に願います。

素晴らしい大自然と歴史ある文化、何よりもこの地域の人々の優しさとすべてを受け止める受容の懐の深さの魅力は私の心をひきつけます。移住までしなくてもいいですが、この地域のことをもっと多くの人に知って頂きたいと思えます。原発被災地としてだけでなく、日本の文化・心のよりどころとしての地域の魅力を知るためにも。是非一度足を運んで下さい！



7/25 小高神社：神様に奉納する馬を捕える野馬懸け
(国指定重要無形民俗文化財)



7/24 帰り馬：行列などを終えて帰る馬に水を

9・10月の行事予定

9月 すべての命を守るための月間		10月	
4(日)	教会敬老会中止 日曜学校2学期始業式	1(土)～ 2(日)	侍者合宿
8(木)	聖マリアの誕生	21(金)	教区召命合同祈りの集い(防府)
14(水)	十字架称賛	29(土)～30(日) 司教公式訪問	
19(月)	教区の日 教区100周年開年ミサ(米子教会)	29(土)	備後協働体合同研修会
25(日)	世界難民移住移動者の日	30(日)	堅信式

夏が過ぎ秋の始まり…とは言ってもまだまだ残暑の中。日中の外出は躊躇してしまいます。でも、朝が少し遅くなり、蝉の鳴き声もだんだん少なくなってるように思います。ほんの少しずつ変化していく毎日。太陽の輝きや風の音に雲の流れ…ちょっと静かに耳を澄ませて自然の気配を感じてみては如何でしょうか… (MH) 月報委員会